

南部保健所 所長 長棟美幸 先生



照屋先生> 長棟先生は、2025年4月から南部保健所 所長にご就任されております。遅ればせながらご就任おめでとうございます。

ご就任に当たってのご感想と今後の抱負をお聞かせ下さい。

長棟先生> まずは、貴重な機会をいただきありがとうございます。又、日頃より沖縄県医師会の先生方には保健医療行政に多大なご協力を頂き、この場をお借りして感謝申し上げます。

私は、今年2月から南部保健所の副参事として入職し、4月より南部保健所の所長を拝命致しました。

他県で臨床医（一般消化器外科、麻酔科、内科等）を17年経験した後、保健所長を十数年しておりまして、他県での経験を活かしながら沖縄県で発揮出来たら、と考えております。

沖縄の綺麗な海が好きで毎年沖縄に訪れてお

り、いつか住んでみたいなあ、と思っていたところ、今回その願いが叶いました。しかし、その願いとは裏腹に業務に追われ、現状はなかなか海に行けてないので、今後海に行ける余裕を作っていきたいと思います。

元々、東京の出身で、住み慣れた地域を飛び出すのに年齢的にすごく勇気が必要でしたが、小中学校時代の同級生が先に移住していたので、その友人に話を聞きながら決断することが出来ました。今まで陸続きのところしか住んだことがなく、飛行機でしか行き来が出来ないというのがはじめは不安でしたが、今は大分慣れてきました。

また、沖縄県庁で玉城知事に辞令交付をいただく時に「沖縄県を第二の故郷と思って頑張ってください」と言われたことが強く心に残り、沖縄県を私の第二の故郷だと思い、再び長寿県として復活したい意欲に駆られました。

幸いなことに、長寿県である長野県の保健所に7年間勤務していたこともあり、そこでの取り組みなども取り入れていけたらな、と思っております。長野県の長寿の秘訣の1つとして、食生活改善推進員の方々が誇りをもって活発に活動されているので是非沖縄県でも同じように力を入れていけたら、と思っております。

南部保健所は、那覇市を除く4市5町6村の約42万6千人を管轄し、職員も80人以上いる大きな保健所になります。また、離島も管轄し、那覇市の業務も一部行っています。

私が経験したいいくつかの保健所の中では一番大所帯な保健所になります。保健所は地域ごとの特性がそれぞれあるので、まずは地域を知ることからはじめています。少しずつ慣れていきながら地域が求めることに応じて行政として何ができるのかを所として考えていきたいと思っております。また、今後高齢化が進んでいく中で、高齢者への関わりも積極的にしていけたらと考えております。

照屋先生> 感染症対応や地域保健の課題に取り組む上で、保健所のリーダーシップは非常に重要だと思います。多職種が連携しながら働く現場において、所長としてどのようにチームをまとめ、力を発揮していきたいとお考えでしょうか？

長棟先生> 多職種がいる保健所では行政の組織として、それぞれの班でそれぞれの役割を

皆で協力しながら行っていくことが大切だと思っています。

南部保健所は総務企画班、精神保健班、地域保健班、生活衛生班、環境保全班、健康推進班の6班があります。それぞれの班に班長がおり、各班をまとめています。

また、それらの班を総括する保健健康総括と生活環境総括がそれぞれ1名おり、統括をおこなう所長が1名おります。

保健所は、専門職の集団なのでそれぞれの専門性を活かした業務をしています。

私が心掛けていることは、風通しの良い職場づくり、報連相がしっかりできることを目指しています。

所内では週に1回班長以上が集まる所内会議を開催しており、スケジュールの確認や所内共有事項、議題等を話し合っています。その他細かいことは、都度話し合いをしています。

保健所の業務は多岐にわたり、業務量が非常に多いため整理をしながら特に重要と思われる部分を丁寧に対応していく必要があります。管理監督機関であり、法令に基づいての業務のため、慎重さも必要となってきます。私が目指しているのは、些細なことでも相談できる職場環境作りでして、普段も皆と対話をしながら小さな情報も速やかにキャッチできるように心掛けています。

照屋先生> ありがとうございます。

次の質問ですが、これまでのご経験を積まれ、



今回沖縄県に赴任され、地域住民の健康意識や行政の仕組み、現場の空気感などに違いを感じる場面もあると思いますが、実際に感じた地域性の違いや、その中で意識されていることがあれば教えてください。

長棟先生> まず、沖縄県の健康意識の問題としては、健康おきなわ 21 にも掲載されていますが、沖縄県の課題として令和 2 年の平均寿命が男女ともに下がったことや、令和 4 年の労働者の有所見率が 12 年連続で全国最下位であるなど様々な課題を抱えており、沖縄県の死因の上位が生活習慣病になっています。沖縄は車社会ですから歩く機会が少なかったり、食生活では油を摂取する機会やアルコール摂取量が多いような気がします。温かい気候の生活の知恵で食べ物が腐らないように油を入れて火を通すという習慣があることも伺っています。

また、地域性の違いで感じたことは、一例ですが沖縄のそばと関東のそばの違いなど、食文化が異なることを感じました。ですが、それぞれの地域でそれぞれ美味しいものがあり、特に沖縄のフルーツの美味しさに感動したことや、鶏肉や夏野菜、もずくなどの美味しさも日々味わっています。他には、市町村名や氏名の読み方に慣れるのに少し時間がかかりました。同じ漢字の名称でも読み方が異なったりする場合があるので必ず確認するようにしています。そういう私も『長棟（ながむね）』という苗字でよく珍しいと言われるのですが、沖縄は、『ながみね』姓が多いのでたいてい、『ながみねさん』と呼ばれてしまうのですが『ながむね』ですので、よろしくお願いいたします（笑）。

また、行政の業務に関しては、どの都道府県に行っても業務的には殆ど差がありません。

福祉業務や、動物業務、環境保全業務の有無や組織定数などの細かい違いはありますが基本的に行う業務は一緒なので、今いる場所で精いっぱい尽力していきたいと思っています。

照屋先生> なるほどですね。ありがとうございます。続きまして、沖縄県医師会に対して



のご意見・ご要望がございましたら是非お聞かせください。

長棟先生> あらためて、沖縄県医師会の先生方におかれましては、日頃から保健医療行政に様々なご協力をいただき大変ありがとうございます。今後も更なる連携を深めながらご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

また、私は、看取り医として約 10 年、何百人かのお看取りをしてきました。その時の経験を活かし、住民啓発として ACP（人生会議）の講演会をどの県にいてもやり続けて参りました。日本全国でそのような活動をしており、過去には九州保健所長会の連携推進会議で熊本でもお話させていただきました。日本の高齢化社会において ACP への住民の理解は非常に大切であり、我事として捉えていただく必要があります。

私自身も沖縄に来てすぐに父を亡くしまして、ACP の大切さを更に身に染みて感じました。祖母も看取ったことがあり、患者からの立場から、看取り医からの立場からも課題を沢山感じてきました。沖縄県でも活動を続けて参りたいので、沖縄県医師会で ACP の講演会等の機会がありましたら、是非お声掛けくださると幸いです。

照屋先生> ありがとうございます。沖縄県医師会でご協力できることがありましたら、ぜひお声かけさせていただきますね。

最後に、日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせください。

長棟先生> 日頃の健康法ですが、足を痛めてからなかなか運動が出来ないのですが、その代わりに食事には気を付けるようにしています。

料理が好きでストレスが溜まった時ほど丁寧な料理をすることを心掛けていて、最近は沖縄料理などにもチャレンジしています。職場にもお弁当※をなるべく持っていくように心掛けています。以前、漢方外来もしていたこともあり東洋医学的な観点からの食養生にも興味があり、薬膳料理や発酵料理なども取り入れて料理をすることもあります。

趣味は、最近はなかなか行けてないですが、海で泳ぐことやドライブ、映画鑑賞や犬と遊んだり、旅行に行くのが好きです。少しずつ余裕ができれば、また海にも繰り出していきたいと思っています。まだ南部の一部の海にしか行けてないので、是非おすすめの海がありましたら教えて頂けると幸いです。

そして、座右の銘は、不撓不屈です。どんな困難にもくじけず、最後までやり通す強い意思でコロナ禍も所一丸となって乗り越えてきました。皆で協力して乗り越えたからこそ、当時の保健所管轄内の住民数が56万人いても職員数が39人で何とか乗り切り、管轄保健所内でコロナの在宅死亡例がゼロだったと自負しております。

大きな物事が起きた時に一人一人が力を合わせ乗り切っていく力の大きさは計り知れません。

段々年齢も重ねて身体ということをきかなくなり若い頃のようになかなかいきませんが、これまでの経験を活かしながら、今後も地域のために尽力して参りますのでこれからもどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

照屋先生> 本日は大変お忙しい中、ありがとうございました。

今後ともぜひよろしくお願いします。

インタビューアー：広報委員 照屋 勉



PROFILE

略歴

平成6年金沢医科大学卒
金沢医科大学病院 一般消化器外科
東京警察病院 麻酔科
社会福祉法人 賛育会病院 内科
辻中病院 柏の葉 漢方内科
長野県 上田保健福祉事務所 所長
埼玉県 草加保健所 所長 等

資格

社会医学専門医
社会医学系指導医
日本医師会認定産業医

所属学会

日本公衆衛生学会

※【ある日の職場で食べるお弁当】



- ◆ ツナとプチトマトときゅうりの塩麹合えサラダ
- ◆ なすとピーマンの醤油麹炒め
- ◆ 切り干し大根の煮物
- ◆ 長芋のキムチ
- ◆ 梅干し
- ◆ カツオと干しエビのふりかけ
- ◆ 雑穀米

